

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 7 号 (6 月 13 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体 2 回戦で鶴岡東に痛恨の PK 合戦負け

6 月 1 日 (土) 県総体 1 回戦が行われました。午前、開会式・監督主将会議が米沢工業高校会議室で実施。3 年前も置賜で県総体が行われ、監督・主将会議は同じく米工会議室で行われた。マツキ (現山形大学 3 年 山東第 67 回卒) を主将役にして出席したことが思い出される。**今年の参加者は、副主将にして、他校の顧問 (山形城北 W 監督) にも継続して着目されているホンマことタケチャン。**ホンマは苗字で名前はユウタ。ユウタことタケチャン。どちらにせよ訳が分からない。よく山東のあだ名は顧問 (今野) がすべて決めていると思われがちだが、タケチャンはそれが誤りであることの典型で、先輩 (今年の副主将のミヤガワか確かかの命名)。「ホンマ⇒ホンマでっか TV⇒明石家さんま⇒大竹しのぶ⇒タケチャン」・・・どんだけ発展させてんだよ (怒)。それでも、タケチャンが流布し他の部の生徒からも呼び名は「タケチャン」。ともかく、朝タケチャンと、サッカー、学校生活、女子生徒のことなどを話ししながら、米沢に向かう。「アイツとアイツ、付き合ったら面白いね」、「アイツはムツリ系だから、同学年にも秘密主義通ってますね」、「タケチャンはどうなの? 俺、口が堅いことで有名だから、何なりと言ってみい」などの会話をしながら、米沢に向かう。そう言えば、前年は馬場と同じ会話してたな～。

午前の開会式・監督主将会議を経て、午後、米沢 SF にて神室産業高校戦。神室産業は監督さんが山東陸上競技部 OB (確か)。私も昨年度、選手権の予選で試合を観ている。もちろん出場選手が違うだろうが、イメージがあるのとないのとでは雲泥の差。試合が始まると、山東優勢。得点も快調に決まり、5 得点。ただし、山東の中へのクリアボールに対してそのまま素晴らしいミドルシュートを打たれ、1 点返された。**結局 5-1 で山東の勝利。**GK との 1 対 1 を 2 回外すなど、もっと点を決めなければならないし、失点シーンでも、MF 含め DF ラインに吸収され守備の厚みを欠いたために、ミドルシュートへのプレッシャーが遅れた。もちろん、「クリアは外」の大原則を外してしまっている。攻守に反省点を抱える。とはいえ、大量得点で 1 回戦を突破し、シード校と対戦できることとなった。

大会二日目 (6/2) 2 回戦の相手は、第 8 シードの鶴岡東。部報前号でも書きましたが、ここ最近連続している相手。2016 年県総体、2017 年県総体、2017 年選手権県予選で当たっている。しかも、**両方勝ち上がって上の山で当たるのではなく (それなら仕方ない)、2 回戦でいつも当たる。**ちょっと前は、山形明正と連続して当たっていた。ご子息が山東にいた I 原先生の「さすがにもうないでしょう」との決別宣言が出てからは、本当にそれ以降明正とは当たらないできている (県大会では)。I 原先生の言霊パワーに脱帽です。

さて、6 月 2 日、**清野総監督 (後援会名誉会長)、後藤報道局長**は当然のようにお見えになる。**後援会会長にして山形県サッカー協会副会長の岸さん**もお見えになった。スタッ

フ陣も、**高橋コーチ、小池コーチ**は当然のようにいらっしやるとして、**はるぼる宮城県北部から齋藤 GK コーチ、鶴岡から伊藤トレーナー**もお越しくくださった。土曜日が多かったが、この日も本当に多数の保護者及び保護者 OBOG の方々がお集まりになっている。サッカー部 OB としては、**正月の埼玉遠征、春の千葉遠征にも帯同してくれたカツミ（上智大学3年 山東第66回卒）**が来てくれた。**カツミ父の晃先生（山東サッカー部前監督 山東35回卒）**もいらっしやっていたようだ。さあ、決戦。

試合が始まると、ボールが落ち着かない展開。ということは、山東の流れ。山東は実質的にビルドアップを放棄し¹、DF は長いボールで一気に FW を使うか、GK にバックパスして、GK イグラのパワフルなキックで相手の裏を突く。**まさにイグラシステム！** 今年の山東、GK の展開力に助けられている²。鶴東は、何とかボールを落ち着かせて、スキルの勝負に持ち込みたいのだろうが、一気に突っ込んでくる山東相手にやりづらそうにしているように見えた。そしてこの日、**3年FW オサが好調**。というか、それくらいの力があると思うが、元気に本来の力を発揮している。オサにけん引された山東の攻撃は FK や CK をたびたび得るが、形にすることができない。特に、良い位置で得た FK を枠内に収められなかったのは痛かった。あれ、一人がチョンと転がして壁からボールをずらし、**ユッキーことツノダ**がシュートを狙ったが、M リーグでは明正相手にツノダは直接決めており、直接狙ったらどうだったのか。ともあれ、山東優勢というわけではないが、山東の方が持ち味の出した**前半は、両チームスコアレスで終了。応援側に回った選手の応援の音が、とても大きくて素晴らしく、「選手権まで待てない」山東のこの大会にかける思いが伝わる。**

後半は、徐々に山東の特徴をつかんだ鶴東が鋭い攻撃を繰り出すようになり、鶴東の持ち味も発揮される。そういえば、後半開始早々、**3年ボランキノフ**の強いというよりコースをしっかりと狙ったミドルシュートが相手 GK のセーブにあいながらもバーを叩いたのは、惜しかった。まだ始まったばかりだったので、期待の高まる前の出来事だったが、今思えばノブはミドルが当たっている日だったのか。これが後半終盤の伏線となる。後半は徐々に山東の選手に疲れが見え始め、足が痙攣する選手も出始める。**前日試合をしたチームと1回戦シード校との差**か。そんな後半の後半、20分過ぎ、山東守備陣が凡ミスをしてしまい、最終ラインで相手にボールをプレゼントしてしまう。このプレー、もちろん CB のミスだったのですが、相手のプレッシャーをある程度（そんな強くもないが）受けている CB に平気でバックパスする MF の判断も悪かった。プレゼントされたボールを一気に山東ゴールまで運ばれ、GK と 1対1、それを冷静に流し込まれ、**山東失点**。もったいないと言えどもったいないが、今年のチーム、DF、こういう凡ミスがしばしばあり驚くに当たらないのが、残念なところ。その後も、同じようなプレーが続いて飛び出して、あわや

¹ ビルドアップをわざとしない、させないではありません。私も DF 陣に、そのようにプレーした方がうまく行くと判断するならば伝えるよう伝えている。ただし、止める・蹴る・運ぶのスキル不足とパスを成功させる判断力に欠けるため、DF 陣が不安でパスを MF 等につけられない現状にある。ゆえに、ダイレクトに FW に長いボールを送り込むプレーが多くなってしまった。

² イグラのキック力は、私が赴任して以降の山東 GK の中で疑いなく NO.1。齋藤 GK コーチ（山東第43回卒）が及ばないのは当然として、高橋コーチ（第46回卒）の現役時代と比べてもキック力だけだったら勝っているのではないか。もともと利き足の左足のキックはいいものありましたが、2年から3年にかけて、右足のキック力も磨かれ、クリアにスキがなくなりました。おそらく、県内のこの代の GK の中でも、プレスキックだけだったら NO.1 でしょう。ただ、このようにイグラシステムに頼ってばかりいると、代替わりしたとき、とたんにつまずくことでしょう。何とかしていかなければなりません。

2失点目を喫するところだった。さあ時間は刻一刻となくなり、山東苦しくなってくる。残り6、7分のところで、**4バック(DF4人)から3バックにし、ポランキのノブを1列上げてトップ下にし、勝負に出る。**鶴東の選手がゴールを目指すより時間を使うプレーを選択する状況の後半35分を回りかけたあたり、そのノブが大きな仕事をやってくれた。ドリブルでボールを運び、ちょっとマイナス気味にボールを置き相手のプレッシャーが一瞬弱まったすきに**ミドルシュートを放つと、そのボールが鮮やかに鶴東ネットを揺らす。山東、起死回生の同点弾!!!!!! すべての山東関係者の思いがボールに乗ったシュート。**アディショナルタイム含めて残り時間2、3分のところで放たれたシュート。劇的すぎる。**ノブ、あの苦しい状況でよくぞ決めた!!!** 実は私、ミドルシュートを打つのは早いと思って、「打つな」だったが「だめだ」だったか、叫んでおりました。そしたら、あんな風になって・・・不明を恥じるばかりです。ともかく、顧問の予想を最高の形ではねのけて、力がよみがえった山東。その後も攻めて、あわや、延長前に逆転か、の勢いがあった³。しかしそのままホイッスルが鳴り、**延長戦に突入。**

山東からしたら、敗色濃厚な状況から延長戦でイーブンな状況で戦える。助かったと言えない。ベンチでは私も含めややはやしやぎ気味の雰囲気があったが、**3年マネのアヤ**が「まだ勝ってません」と冷静に釘を刺す。そうだな、その通り。アヤに浮つきを正してもらった。延長では、やはりセットプレーから山東はチャンスを作り出す。セットプレーであれ何であれ、結果のみが欲しい。ただ、痙攣したり故障箇所を抱え体力的に厳しかったりする選手を抱え、1点を死に物狂いで獲りに行く交代・コーチングができず、攻守のバランスを意識してしまったのが、今となっては悔やまれる。結局両チーム決め手を欠き、**延長戦はスコアレスで、合計1対1のまま、PK合戦突入。**

実は試合前、イグラと話し合い、PK合戦になりそうだったら、**モンテ村山から今年入部したばかりのルーキーGK コーセー**と代えることに決めていた。シュートストップでは、イグラは自分と比べてコーセーの実力を認めていたということだろう。そのコーセーをPK合戦直前にピッチに送り込む。PK合戦を蹴る5名の選択は、私の場合、ずっと3年生(上級生)主体。キックの上手な下級生がいても、上級生優先でこれまで来た。私が高校1年生の時、**芹川さん(せりかわ整骨院 山東第41回卒)**の代の県総体1回戦でPK合戦となり、2年生が外して3年生が引退となったという出来事があった。もちろん3年生はその2年生を責めたわけではないが、その2年の先輩⁴は大げさな表現を使えばずっと十字架背負っているように思えた。その経験以来、当時の**佐竹監督(故人)**は上級生主体でPK合戦に臨んだし、私もその方針を受け継いでいる。ただし、この試合、3年生をすでに3人交代させており、ピッチ上に3年生が4人しかいない。誰に蹴らせるか思案しつつPK合戦に備え集まってきた選手に声がけすると、誰も蹴りたくない様子。確かに責任が重いのはわかるが、誰も責任を取りたくない姿勢はね～、PK合戦の前に士気がそがれる(斎藤GKコーチはGK出身者としてこういう雰囲気をととても嫌う)。ともかく、コースが甘くなったらすぐ止められるシュートではなく、強く低いシュートを心がけるよう声がけして選手を送り込む。すると・・・**鶴東のGKの反応の速さ、読みの的確さ**もあり、

³ ショータの代(山東第63回卒)の県総体でも、酒田光陵のグラウンドで、土壇場で同点、すぐ逆転という展開がありました。

⁴ 山形六中が自県開催の全中で3位になったときの司令塔だった人で、キックのうまさ、判断の速さなど、私も選手時代目標にしていました。

蹴った4人中3人がGKに止められてしまった。決めた1本もコースは読まれていた。反応に関しては、サイドネット付近に飛んだ良いコースのシュートも止められてしまった。キック前にGKは動いていけないのだが、それは前に出ていけないということであり、横に早く動くのは、ルール上あり(だと思う)。おそらく、キック前に横に動いていたのでしよう。素晴らしい相手GKだった。**コーセーも1本止めてくれて、PK合戦のために出場した面目躍如。**しかし、**結局PK合戦1-3⁵**で、山東5人目(オサ)が蹴るまでもなく敗退。**鶴東は、GKも素晴らしかったし、キッカーのFPも延長戦ってなお力強いキックであり、勝者にふさわしいPK合戦でした。こちらは延長戦ってなお力強いキックをする心身の強さを育てきれませんでした。**起死回生のゴールで延長まで粘りましたがね～、痛すぎるPK合戦負けとなりました。考えてみれば、私、**県総体で初めて延長を戦ったし、初めてPK合戦を経験した。もちろん初めてのPK合戦負け。**これを書いている段階で敗戦の日から6日経っていますが⁶、まだ抜け殻状態です。おそらく、10年くらい「こーすれば良かったのか、あーすれば良かったのか」考え続けるでしょうね、過去に喫した痛恨の敗戦と同様に。

結局、**今年の県総体は羽黒高校の2連覇**となりました。羽黒は大会を通じて調子を上げて行った印象があった。**今年の南部九州IHのサッカー競技は、沖縄開催!**羽黒は9年前の前の沖繩IHも出場しましたが、その意味でも連続出場となりました。前の沖繩IHをかけた決勝は、山東対羽黒だった……。私が山東に赴任して二度目の決勝進出で、赴任一年目晃先生が作り上げた代での一度目の決勝進出とは違った感慨があった。あのときは沖繩への夢を見ました(山東第61回卒 コースケの代)。それ以来、県総体の決勝に出られてない……。ともかく、**近年、IHでも選手権でも山形県代表は全国の舞台上勝ててない。羽黒高校の皆さん、まずは一勝! 頑張ってください。**

県総体二日間、大応援ありがとうございました。選手は死力を尽くして走り戦いました。あの敗色濃厚の土壇場で粘れたというのは、このチームの成長を示したと言っていいでしょう。県リーグ2018後期で敗北を重ね、選手権では1回戦でPK合戦負けし、県新人も逃した、決して順風満帆でなかったこのチームが、こんなにも立派に戦いました。昨年の段階では、真剣に県総体に出場できないことを危惧しましたが、こうやって県ベスト16まで来ました。**選手の成長を褒めたいと思います。ただ監督の力量が足りませんでした。**

試合後、保護者に挨拶した後で後ろを振り返ると、選手たちはダウンを始めていました。例年、県総体敗退後はうなだれ、ダウンもままならないのですが、気持ちの面ではすぐには切り替えられないにしても**次に向かって動き始める選手たちを、遅く感じました。**そう、県総体が最終戦ではありません。県総体第7節(前期最終節)が多くの3年生にとって引退の日となるのでしよう。**最後まで成長を目指します**ので、応援よろしく願いいたします。

6月15日(土) Y2A 第7節 山形明正戦 @山形明正 10:00～

⁵ 公式記録がPK合戦2-4となっており、新聞でもそう発表されておりますが、誤りです。

⁶ すみません、配達遅れましたが、書いたのはもっと早かった。